

第2章 富山地区（旧富山町）

1. 位置

南房総市の内房側(東京湾側)の入り口に位置するまち。

安房の代表的名山「^{とみさん}富山」を挟んで東西に広がるまちであり、東側は、鴨川市及び丸山地区に接し、西側平野部は沃野がひらけ、東京湾に面して岩井海岸の砂浜が広がる。



2. 地形

富山と、その東北東に位置する房総のマッターホルンと呼ばれる「^{いよがだけ}伊予ヶ岳」は、県立の自然公園となっている。さらに南東側には峰岡山系に連なる^{ごてんやま}御殿山が望め、この房総の三山には、多くのハイカーが訪れる。

また、東京湾側の旧岩井地区は、遠浅の海「子供の海・岩井海岸」として夏季には多くの海水浴客で賑わう地として知られている。



岩井海岸のようす

3. 山 岳

1) ^{とみさん}富山



富山の全景

概要

ア) 所在

富山地区の中央部、西から南側は合戸・宮谷、東から北側は吉沢・二部の地域にかかる

イ) 標高

349.5m

ウ) 歴史

富山の名前は、古代神話に登場する安房開拓の祖「^{あめのとみのみこと}天富命」の逝去の地であることにより名づけられたといわれている。

この山は、北の峰と南の峰の二つの山頂があることから動物の耳を形容した^{そうじほう}双耳峰という特徴をもつ山容の美しい山として知られている。

特に海上（金谷～久里浜のフェリー乗船中）からの姿は美しく、古くから航海の目標とされ、石橋山の合戦に破れ当地方に舟で逃れてきた源頼朝が航路上の目標としてきたともいわれている。



海上から見た富山

山として標高は高くはないが、温暖な気候と雨にも恵まれ常緑のシイやカシ、スギなど鬱蒼とし、曲亭（滝沢）馬琴の戯作・「南総里見八犬伝」の中で富山は、「とやま」とよばれ「深山幽谷の世界」と表現されているが、まさにその霊山としての佇まいを呈している。

曲亭(滝沢)馬琴の「南総里見八犬伝」の世界への誘い

南総里見八犬伝は、九輯^{しゅう}106冊にも及ぶ大作。江戸時代の作家、曲亭（滝沢）馬琴（1767~1848）が28年の歳月をかけて刊行した房総里見氏（戦国時代10代にわたって房総を支配した。）の史実等を参考に書かれた伝記小説。物語は、房総里見初代の里見義実の娘「伏姫」と敵将の首を取ってきた妖犬「八房」とが富山（物語上はトヤマと呼ばれる。）の中腹にある洞窟に籠り生活することに始まり、義実と家臣（金碗^{まり}大輔）に見つけられた八房が家臣の放った銃弾に倒れ、その流れ弾にあたって伏姫も倒れる。伏姫はこの時、八房の気によって妊娠していたが、犬畜生と交わったわけではないという身の潔白を父親に示すため自害する。すると、白煙が立ち上がるとともに、仁・義・礼・智・忠・信・孝・悌の霊玉が飛び散る。その後、犬の姓や体の一部にボタンのあざとその霊玉を持つ八犬士が登場し、関東一円を舞台に活躍するという勧善懲悪・因果応報の世界を描くストーリー。



伏姫と八房

仁・義・礼・智・忠・信・孝・悌の八犬士

伏姫籠穴

安房里見氏を題材として曲亭馬琴が書いた江戸時代の戯作（長編小説）「南総里見八犬伝」のゆかりの地であり、中腹には安房里見氏の祖「里見義実」の娘の伏姫と愛犬八房が立て籠もっていたとする籠穴がある。



伏姫籠穴山門



伏姫籠穴



伏姫籠穴と犬塚

富山中学校正門右の林道（奥沢林道）を10分（約1 Km）ほど歩くと籠穴の山門があり、そのすぐ右上のところに犬塚（八房の墓）がある。山門から200段弱の階段（遊歩道）を登ると、八角の舞台（休憩所）とその上に籠穴が見える。平成8年に山門や遊歩道が整備された。

山門を登ってすぐ左にハランが群生し、遊歩道の脇に、初夏には、ガクアジサイの花やトキワツユクサの白い花が見られる。また、春（4

月) 八角舞台付近には、植栽されたミツバツツジが花を咲かせる。



犬塚

八犬士終焉の地

南峰と北峰の鞍部に記されている(木柱により)

功成り名を遂げた八犬士は山頂の観音堂の傍らに庵を建て、凡そ二十年間風月を友として老後を楽しんだ。八犬士はそれぞれ里見の姫君を娶り子供にもめぐまれ、その子供達に見守られながら仙人となり山頂より雲の彼方に消えていったという。

北峰山頂

山頂に上がると、展望台があり、東京湾を望む景色が目の前に広がる。晴天の空気の澄んだ時は、富士山をはっきりと見ることができ、海に浮かんだようなその姿は大変美しい。江戸湾警備のため訪れた会津藩主松平容保は富山登山記において、その景色を、「嘉永6年4月8日・当日快晴11州余眼下に迫(庶)り絶景、言語に尽くしがたし」と詠んでいる。(東大図書館蔵：房総御備場御用手びかえから。)



富山山頂の展望台

富山山頂からの眺望

エ) 自然

昭和 26 年には東北東にある伊予ヶ岳とともに県立自然公園に指定され自然豊かな山として脚光を浴びるようになり、平成 11 年 2 月 5 日の皇太子、同雅子妃殿下のご散策を契機に全国的にその名が知れ関東各地から登山客が増加した。



散策の様子と記念碑

富山でよく見られる主な植物

雑木林の代表的な樹種コナラ、クヌギなど落葉広葉樹にスダジイ、カシなどの常緑照葉樹が多く、常緑の針葉樹であるスギは、人工的に植林されたものと、樹齢 300 年以上と推定される原生林的巨木もある。南峰の南斜面には自然林があり、登山道を登るとスダジイなどに混じりホルトノキが見られ、12 月から 2 月にかけてスイセンが咲き乱れている。林のスギにはフウトウカズラが巻きつき、途中にアリドオシが目立ち、5 月頃に白い花をつける。

南峰と北峰の鞍部にはニリンソウが群生して 4 月中旬が見ごろとなる。また、特に、温暖な気候で水も豊富であることからシダ類が多く自生している。そのほか、草花として注目されるものとして、ミヤマハコベの白い花も時おり顔を見せる。林道（伏姫籠穴登山コース）脇にはこの地方では珍しいシャクが群生し、ほかにカテンソウ、セントウソウ、キケマン、ムラサキキケマンなども見られ、4 月が見ごろとなる。

秋にはキバナアキギリやアキバギクも楽しめる。「道の駅・富楽里とみやま」(二部 1900 地先) 方面から最近整備された西尾根のコース中に春にはヤマブキの開花が、夏から秋にかけてはカラスノゴマ、ミツバベンケイソウ、ツリガネニンジン、フタバハギ、コマツナギ、ナギ

ナタコウジュなども見ることができる。



スイセン



ニリンソウ



スダジイ



アキバギク



ムラサキケマン

杉の巨木

樹齢 300 年以上の杉の巨木。三大杉 仁王の大杉 臥竜の大杉 = いずれも南峰観音堂の境内および入り口付近にある。縁結びの大杉 = 普通の杉よりも葉が丸みを帯びていることから「ポタン杉」と呼ばれている。北峰山頂手前の鞍部西側にある。



ポタン杉

富山でよく見られる小動物

ウグイス・カケス・シジュウカラ・コジュケイ等の小鳥の鳴き声を聞くことができる。

また、リス・タヌキなども生息している。



ウグイス

オ) 交通

福満寺登山道入口

J R 内房線岩井駅から市営バス（愛称：トミ）で登山道入り口まで利用可、所要時間約 10 分

駅から県道富山・丸山線を登山道入り口（福満寺）まで歩いて約 30~35 分

伏姫籠穴登山入口

J R 内房線岩井駅から市営バス（愛称：トミ）で市営駐車場まで利用可、所要時間約 7~8 分

駅から県道富山・丸山線を市営駐車場まで歩いて約 20~25 分

市営駐車場～富山中学校の右側の林道を約 10 分歩くと伏姫籠穴の山門に辿りつく。

ハイキングコース

ア) 距離及び標準時間

福満寺登山コース

福満寺～小さな峠をひとつ越え、約 40 分で南峰（観音堂）に着く。

そこから鞍部を歩き約 5 分で北峰（展望台）に着く。



福満寺仁王門

伏姫籠穴登山コース

伏姫籠穴からは、だらだらとした上り坂の林道（奥沢林道）1.2km程度(約 20 分)に続き、階段状につづらおりとなる登山道は、鞍部を經由して北峰山頂まで約 1・2km おおむね 30 分を要す。



伏姫籠穴山門

イ) 建造物

北峰・金比羅宮 = 現在はかなり朽ちている。

創建年月不詳、文久年間（1860 年代前半）地元の房州屋栄吉が先達となり、江戸講仲間が参詣寄進する。堂の大修理の際、普賢菩薩白象台座が発見された。

南峰・観音堂 = 現在はかなり朽ちている。

奈良時代、聖武天皇の祈願により天平 3 年（703 年）行基菩薩（奈良薬師寺の名僧）の創建。昭和 30 年（1955 年）8 月 17 日原因不明の失火により全焼した。その 3~4 年後仮堂が建てられ現在に至る。



観音堂

石碑

北峰山頂 = 皇太子、同雅子妃殿下御散策記念碑



南峰観音堂境内

大正時代の童話作家・巖谷小波が馬琴を讃えて作った詩の石碑「山高きゆえに貴からず 曲亭翁の靈筆によりて この山の名長しへに高く尊し」と前書きし「水茎の香に山も笑いけり」とある。

付近の見どころ

ア) 自然

吉井の大井戸

富山の北側の麓に、天然記念物として吉井の大井戸「吉沢 1761 (吉井地区)」がある。富山の伏流水を湧出している井戸で、このあたり一帯の家々に恵みを与える井戸ということで、地名も吉井と名づけられた云われる安房の名井の一つである。水は灌漑用水や牛乳の冷却水などに利用され、むかしは水車で米や麦をついた。

付近に水車小屋が復元、周辺を公園化(桜の植樹など)している。



吉井の大井戸
付近の水車小屋

イ) 歴史

川上駅と大伴家持

富山から伊予ヶ岳への向かう途中に、古代の駅（朝廷からの使者などが休んだり、馬を乗り継いだところ。）「川上の駅」の跡と伝えられるところがある。万葉の歌人大伴家持は奈良朝廷の安房の国調査団の一行に加わり当地を訪れ、土地の豪族平群氏の歓迎を受ける。その歓迎団の一人、平群の郎女に目を留め贈答歌を詠っている。（大伴家持 = 奈良時代（710～784）の歌人、万葉集の編纂者の一人：三十六歌仙の一人）

「隠沼の 下ゆ恋ひあまり 白波の 白くいでぬ 人の知るべく」は、万葉集の巻十七に収められた郎女 12 首の歌の一。相聞（恋歌）の秀歌として古くから賞賛されている。

ウ) 遊歩道

水仙遊歩道

富楽里から 3.5 km のハイキングコース。12 月～2 月にかけて栽培している水仙が満開を迎える。群生地は水仙の香りに包まれる。



水仙群生地

2) 伊予ヶ岳^{いよがだけ}



山頂
付近



伊予ヶ岳の全景

概要

ア) 所在

富山の東北東、約 3 km の平久里中に所在する。

イ) 標高

336.6 m

ウ) 歴史

この地方（安房郡）は、古代神話に登場し、安房開拓の祖とされる「天富命」^{あめのみのみこと}に率いられ、黒潮によって四国の阿波の国（現在の徳島県）からやってきた忌部一族^{いんべ}が居住したことから、同じ四国の地、伊予の国（現在の愛媛県）の名山である伊予の大岳（石鎚山標高 1500m）に思いを馳せ、この山を伊予ヶ岳と名づけたと云われている。県内では唯一「岳」という山の呼び名がついている。

山の容姿もこの「岳」と言う名に相応しく、山頂の奇岩がきわだつ急峻な山であり、房総の「マッターホルン」あるいは「安房妙義」とも俗称されている。

特に中腹から上は、岩が露出する急斜面であるが、ロープや鎖が張られ登山の安全性は確保されている。

エ) 自然

伊予ヶ岳でよく見られる主な植物

春には、ヤマブキ、タチツボスミレ、サイハイラン、ヤマユリなどが開花し、秋にはコマツナギ、ノカンゾウ、カラスノゴマ、ヤブツルアズキ、キヨスミギク、タムラソウ、アキノタムラソウ、ヤマハッカ、コシオガマなど数多くの植物が見られる。



サイハイラン



タムラソウ



ヤマハッカ

オ) 交通

JR内房線岩井駅から市営バス(トミー号): ^{てんじんごう}天神郷で下車・約15分



黄色が特徴のトミー

ハイキングコース

ア) 距離及び標準時間

天神社^{てんじんしゃ}左手からの登山道をのぼり、アズマヤのある尾根筋に上る。

このさき小石まじりの急な上り坂となり、鎖場へと。鎖場を登りきると左手に下りる階段があり、その下に青龍権現祠のあるテラスがある。この場から大岸壁を背に旧平群村を一望できる。更に鎖場から先に登ると頂上に到達する。ここから見る 360 度のパノラマは絶景である。

天神社から約 1 km、40 分程度で頂上に至る。

イ) 建造物

せりゅうごんげん
青龍権現の石碑

頂上付近の崖地に「青龍権現」^{せりゅうごんげん}(龍神 = 水神)の石碑が祀られ、昔から干ばつの際に「雨乞い」の神事が行われていたところで、神事のとき以外には村人は足を踏み入れない聖域として尊崇されていた。

付近の見どころ

ア) 文化財・自然

へぐりてんじんしゃ
平久里天神社

登山道入り口にある天神社は、室町時代の文和 2 年 (1353 年) に細川相模守が霊夢により京都北野天神をこの地に勧請したといわれている。当時は平郡 9 村 (邑) の鎮守。



平久里天神社の全景



毎年 10 月の第 3 週の日曜日に行われる平群の祭礼。担ぎ屋台（山車）が天神郷に集まる（8 台）風景は勇壮である。

有形文化財・紙本着色天神縁起絵巻・平久里中 202（天神社）
 天神縁起絵巻は、南北朝から室町時代初期に製作されたもの言われている。3 巻本で、寸法は各巻とも縦は 33.5cm であるが、横の長さは 1 巻が 14m・,2 巻が 22.3m・3 巻が 19.1 m というもので、3 巻は後から補われたものと考えられており、かつて地元で生産された平久里紙が用いられている。今でも保存状態が良好で色彩鮮やかな絵巻である。



紙本着色天神縁起絵巻



平群天神くすの木（市指定天然記念物）

登山道入り口「天神社」参道の鳥居前にある二本のクスノキは、およそ千年前に住民が植えたものといわれ、男木は高さ 25m、女木は高さ 15m、幹周りはともに 4m を越える大木である。



平群天神くすの木

イ) 建造物

天神社境内の石碑

地元の名主の家に生まれ、江戸時代（幕末）のから明治初期の医師であり江戸において書道家として活躍した加藤霞石^{かせき}の顕彰碑がある。

他に、戦前・戦後の地元獣医師渡辺高俊氏の顕彰碑も建立されている。

星巖橋と紅蘭橋

幕末の高名な漢詩人梁川星巖・紅蘭夫妻が房総を旅し、加藤霞石宅に一週間以上にわたり逗留した。後にこの当地来訪を末永く伝えようと二つの橋に名前を残した。荒川方面に行く橋を「星巖橋」、山田方面に行く橋を「紅蘭橋」と名づける。

3) ^{ごてんやま}御殿山 (第8章丸山地区の項に詳述)



御殿山の全景

概要

ア) 所在

富山地区の東奥、山田と丸山地区に跨る。

イ) 標高

363.9m

ウ) 歴史

山の名前については、日本武尊が東征し安房を平定したとき、四方が一望できるこの山頂に御殿を設けたと伝えられている。一方丸山町史では、里見家がこの辺で鷹狩りを行った。その時の御殿が建てられたとしている。(御子神家「家記」より。)

エ) 自然

山の特徴として頂上が乳頭状になっているが、この樹冠は数本のマテバシイと一本のスダジイの古木の森となっている。

自生する草花としては、タチツボスミレ、ガマズミ、ヤマユリ、キリンソウ、ツチアケビ、ヤマハッカ、アキノタムラソウなどが見られる。



御殿山山頂からの眺望



御殿山山頂のマテバシイ



スダジイ



タチツボスミレ



ガマズミ



ヤマユリ



ヤマハッカ



アキノタムラソウ

オ) 交通

岩井駅から市営バス（トミ号）で山田中バス停まで、およそ 25 分。

ハイキングコース

ア) 距離及び標準時間

山田中バス停（高照禅寺そば）から主要地方道鴨川富山線を横断し大関橋を渡り登山道を進む。途中階段状の急な坂道を登ると、春には桜の見どころなる場所がある。更に登り頂上付近にある大黒様を經由して頂上至る。およそ 40 分の行程である。



大黒様

イ) 建造物（石碑等）

山頂に石尊大権現と御子神地区王子神社の祭神日本武尊を祭った二つの石祠がある。



石尊大権現と御子神地区王子神社の祭神日本武尊

付近の見どころ

第 8 章丸山地区の項に詳述

4 . 見どころ

1) 自然

岩井海岸

長い海岸線（館山市の北条海岸に次ぐ）と広い砂浜、遠浅の海の岩井海岸は、シーズン中、臨海学校など海浜リゾート地として多くの避暑客で賑わう。初夏（5~6月）には、ハマヒルガオの花が咲く。



岩井海岸とハマヒルガオ

ア) 岩井海岸と菊池寛の歌碑

戯曲「父帰る」などの著名な作家である菊池寛が40歳ごろのとき（1929年）岩井海岸を訪れ、その遠浅と白砂とに感動し一篇の詩を作った。現在これを記念し歌碑が岩井駅前の公園内、岩井海岸（久枝）および二部地区に建てられている。「遠あさの海きよらかに 子等あまたあそびある 岩井よろしも」



菊池寛の歌碑

蓮台寺の大イチョウ

浄土宗の寺蓮台寺(久枝^{くし}619)の山門の左右には、樹齢 500 年以上と伝えられる大イチョウがある。「夫婦イチョウ」と呼ばれ、ともに幹周り 3.6 メートル、樹高 25 メートルを超える大木として年輪を重ねてきたものである。(市指定天然記念物)



蓮台寺の大イチョウ

2) 歴史

源頼朝伝説を訪ね歩く

源氏の再興を願って立ち上がった源頼朝は、相模の国(神奈川県)石橋山の合戦で敗れ、真鶴岬から小舟で安房の国の狹島(鋸南町竜島)へ治承 4 年(1180 年)8 月 29 日に上陸、その後再起を期して、安房の国を 14 日間にわたり巡ったという伝説がある。この地区には次のような伝説が残っている。

ア) 大蘇鉄

源頼朝も賞^めでたといわれる蘇鉄(竹内 234)。(県指定文化財)



大蘇鉄

イ) 旗竿藪

高崎(高崎 916)にある竹やぶからは、節の間がそろった二股竹がはえ、頼朝はこの竹を旗竿とした。(市指定文化財)

ウ) 弁天社

頼朝一行が小浦近く(小浦 415)を通りかかったとき、神霊が現れ源氏再興の啓示を受けたところとされ、後に頼朝はこの社を建立したといわれる。(市指定文化財)



弁天社

エ) 逆柿

頼朝がこの地(犬掛 501)を通ったとき、柿の枝で作った鞭を地に逆さに挿して「自分の志がかなえられたら芽生えよ」と念じた。その願いがかなって大樹となり、実が逆さになったという。原木は枯れ、現在の樹は何代目か不詳、枯れてしまった原木の一部は、付近の日宣寺にある。(市指定文化財)

オ) 楊枝井戸

山田地先峰岡林道の下には、頼朝が楊枝を地面に突き刺したら水が出てきたという「楊枝井戸」と呼ばれる小さな泉がある。

カ) 伊予ヶ岳の鳩穴

敵に囲まれた主従一行は、この穴に隠れた。頼朝は家来から一枚の紙を受け取り、これをちぎって穴の外へ飛ばしたところ数羽の鳩となって援軍を呼んだと伝えられる。

キ) 頼朝道、頼朝橋

地元の人たちがこう呼ぶ道は、現在静かな住宅地の中にあり、頼朝橋（竹内と高崎の字境あたり）を渡ると田園風景が広がる。また、平久里中中にも頼朝道と呼ばれる道が残されている。

里見氏ゆかり地を巡る

ア) 里見氏内紛の古戦場と墓

犬掛^{いぬかけ}には、里見氏血族同士が争った古戦場がある。安房里見氏初代義実からの嫡流「義豊（5代）」と天文2年（1533年）の天文の内乱で義豊に父（実堯^{さねたか} = 義豊の叔父）を殺害された「義堯^{よしたか}」が激戦（天文3年 = 1534年）を交わした場所である。いまでも勝負田という地名が残されている。結果は義堯が勝利した。敗れた義豊と義通（義豊の父）の墓と伝えられる層塔が付近（明治初期まであった大雲院という寺の場所）ある。



里見氏の墓

南総里見八犬伝ゆかりの地を巡る

ア) 伏姫と八房の像

JR内房線岩井駅前「伏姫公園」内に建つ。作者は、地元出身の彫刻家・山本正道氏（東京藝術大学美術学部彫刻科教授）で、平成5年に建立した。

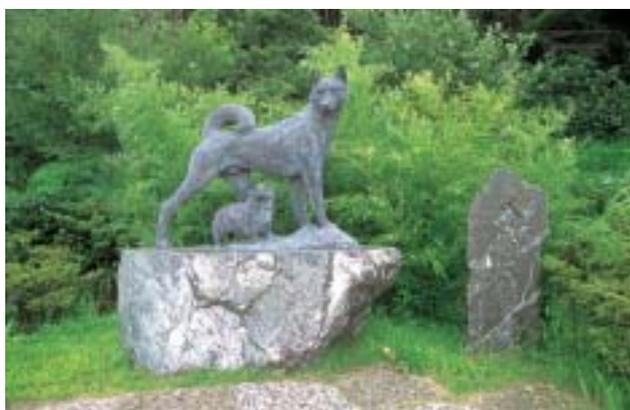


伏姫と八房の像

イ) 八房と狸の像

八房の生誕の地として平久里地区犬掛に八房と八房を育てたとされる狸の像がある。動物芸術家として活躍している山本容子氏の製作で平成7年に建立された。

母犬が狼に襲われ食い殺された一匹の雄犬に乳を与えて育てた狸の愛情物語としてこの地に語り継がれた。狸に育てられた仔犬は、やがて、八房と呼ばれ、後に里見義実^{よしみよしみ}に召され、その娘伏姫に愛玩されることになる。



八房と狸の像

^{ふくじゅいん}
福聚院の山門・駕籠置台

市部の^{ふくじゅいん}福聚院の山門前には、この寺が勝山藩（寛文 8 年 = 1668 年にできる。）の藩主酒井家の菩提寺であったことから、供養のため藩主がこの寺に訪れたときの駕籠の置場がある。初代藩主酒井忠国（1 万石）の父忠朝はこの近くに住んでおり、山門は忠朝の邸宅にあったもの。（市指定文化財）



福聚院の山門・駕籠置台

百田宗治の墓

詩人、児童文学者。昭和 23 年(1948 年)疎開先の札幌から久枝地区に移住、後に高崎地区に住み、昭和 30 年（1955 年）当地で没した。墓は高崎地区の寿薬寺にあり、墓碑銘「百田宗治」は室生犀星の筆による。有名な詩「どこかで春が」は、大正 12 年の作



寿薬寺にある墓碑銘

3) 特産品

富山の農業

富山の東、平群（昭和 30 年の合併までの平群村）は、丘陵部では古くから酪農が盛んであり、また、富山の北東山麓には、多くのみかん園がある。平野部では大正時代から続けられてきた伝統野菜づくり「平群のセルリー（セロリー）」が特産品となっている。このほか有機・減農薬米、インゲンなどの野菜や花卉栽培等の農業も営まれている。



特産品のセルリーの栽培のようす

富山の西、岩井（昭和 30 年の合併までの岩井町）では、富山の麓の合戸、宮谷や、高崎海岸付近の山などでは「ビワ」栽培が盛んである。平野部は、有機米や野菜・花卉を中心とした農業が営まれてる。



ビワの収穫

富山の漁業

高崎・小浦漁港では定置網漁業により近海の水揚げが多く行われている。また岩井海岸（久枝）では、体験できる漁業としての地引網漁や干物の加工なども行われている。



漁港のようす



定置網水揚げのようす



加工施設

4) 体験型観光

当地は、首都圏近郊の温暖な地という房総の気候的な特性や海山の手つかずの自然が楽しめるので、企業、家族の保養地として、また日帰りの釣り等のレジャーに加え、地引網や干物等の加工など児童生徒の体験学習の場として年間を通して利用されている。

また、筍狩り（4月）や特産品である房州ビワ（6月）、房州みかん（10月～11月）狩りも楽しめる。

そのほか、真冬に早春の香を醸す水仙群落を散策できる遊歩道や黄色の絨毯のような田畑一面の菜花は、温暖の地房州そのものの風景（12月～2月ころ）である。（いずれも道の駅「^{ふらり}富楽里とみやま」インフォメーションへの問い合わせを要す。（富楽里 0470-57-2601）



地引網のようす



みかん狩りのようす

筍狩りのようす

5) その他

道の駅「富楽里とみやま」

館山自動車道のパーキングエリアと一般道からのアクセスが可能なハイウェイオアシスとして新鮮な地元農産物、海産物、土産物などの直売所と漁業協同組合直営の海鮮レストランや軽食コーナーを備えている。



道の駅「富楽里とみやま」の外観と店内

文化財一覧表（富山地区）

ア) 県指定

種類	名称	所在地等
有形文化財	菱川師宣過去帳（帖）	二部 1334-1（勝善寺）



名刹 勝善寺



菱川師宣過去帳（帖）

天然記念物・岩井の大蘇鉄・ 竹内 234（網代家）
 有形文化財・紙本着色天神縁起絵巻・平久里中 202（天神社）

イ) 市指定

種類	名称	所在地等
記念物（史跡）	頼朝の旗竿藪	高崎 916（竹林家）
記念物（史跡）	弁天様	小浦 415（神明神社）
天然記念物	吉井の大井戸	吉沢 1761（吉井）
天然記念物	大いちょう	久枝 619（蓮台寺）
有形（民族）	懸け仏・獅子頭	高崎 906（岩井神社）
有形（彫刻）	籠阿弥陀如来	けぎや 検儀谷668（大勝院）
有形（彫刻）	竹内屋台	竹内（竹内区）
有形（建造物）	福聚院山門及び駕籠置台	市部 343-1（福聚院）
有形（彫刻）	高崎浜下屋台	高崎（浜下）



高崎浜下屋台

有形（建造物）	双体道祖神	宮谷 447（池貝家）
有形（工芸品）	王泉私印	久枝 257（南房総市）
記念物（史跡）	逆柿	犬掛 501（宗田家）
記念物（史跡）	加藤霞石翁 <small>かせき</small> の住居跡	平久里中 552（加藤家）
記念物（史跡）	郷倉、高札場跡	平久里下 1800（原家）
記念物（史跡）	古戦場と里見氏の墓	犬掛 663（座間家）
天然記念物	平久里天神社くすの木	平久里中 208（天神社）
有形（民族）	獅子頭	山田 1107（川名家）



獅子頭

有形（絵画）	十王仏	平久里下 265（勝蔵寺）
有形（彫刻）	護国寺地蔵菩薩坐像	吉沢 517（護国寺）
有形（工芸品）	高照寺鱧口	山田 1162（高照寺）

このほかに、指定されていない後藤一門（千倉）の彫刻や波の伊八（武志伊八郎）の彫刻がある。



福聚院蔵